



待ちに待った聖堂でささげられた喜びのミサ

仮住まいから45年 阿久根教会に念願の聖堂

阿久根で定期的にミサがささげられるようになったのは、一九六〇年頃のこと。当時、出水教会の主任司祭だったヤロシユ神父(レデンブートル会)が阿久根を訪ね、信徒宅を利用してミサをささげ、要理を行っていた。そこへ阿久根市から養老院建設のための土地提供があり、レデンブートル会の資金によって建設が始められた。養老院は一九六三年九月にでき、社会福祉法人聖心愛子会(聖心の布教姉妹会)が経営に携わった。そして一九六五年五月、養老院の第二期工事が終わるとその多目的ホールを聖堂として利用する阿久根教会が誕生した。そして以後四十五年間、阿久根の信者は「教会とは建物ではなく人間」という意志をもってこの仮聖堂で、老人ホームと二人三脚で共同生活の絆を強めてきた。今回聖堂建設が実現した

の、一昨年任務を終え、老人ホームを教区に移譲し阿久根を後にした聖心の布教姉妹会が、老人ホーム敷地内の修道院を教区に寄贈してくれたため、教区ではその修道院の一部を聖堂として使用することを決めて、昨年十一月に改装を終えていた。献堂式に先立ち、この聖堂とベトナムから来鹿し老人ホームのために働いてく

二月十一日(木)、これまで四十五年間、隣接する聖園老人ホームの多目的ホールを仮聖堂として使用してきた阿久根教会に聖堂が完成し、その献堂式が行われた。式典には三百人を超える信者が集まり、新しい一步を踏み出した阿久根教会と聖園老人ホームの関係者らと喜びを共にした。



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



れる「ポルティユの御摂理修道女会」の修道院玄關となる入口で祈りをささげ、祝別した郡山司教はミサの説教の中で「老人ホーム内にあるこの教会には体の不自由な人も多い。だが私たちはその人たちから養われてもいる。このように共に足り無さを補い合って生きる時、そこは神の住まい。この教会がいい模範となるように」とメッセージを送った。

聖堂は二十人の司祭団と百人程の信者で埋め尽くされ、ホームの入所者や溢れた信者たちは別会場テレビモニターを利用してのミサの参列となった。ミサ後には、祝

賀会が開かれたが、そこには小さな教会の精一杯のもてなしの心が表され、参列者たちは温かい心で家路に就いた。

シドゥチ神父を学習 今年の司祭大会

教区で働く司祭が一堂に会し、研修し親睦を図る「司祭大会」が一月二十五日(月)から二十八日(木)まで、鹿兒島市内のホテルで開かれた。

納骨堂検討委を設置 教区顧問会

郡山司教は二月十二日(金)教区顧問会を開き、信者から要望が出されている教区立の納骨堂建設について顧問団に諮問した。審議の結果、建設へ向けての検討を正式に始めることが決まり、検討委員会が設置されることになった。検討委員会の座長には小川靖忠神父が任命された。

今年のはじめに講師として招かれたのは、昨年のシドゥチ祭で教区からの巡礼者たちに講話してくれた作家・古居智子さん。屋久島に住みシドゥチ神父について研究している古居さんは、大会中四回の講話でシドゥチ神父の来日までの心の動きやそのための準備、そして屋久島での、また新井白石との心の交流など詳しく説いた。

「鹿兒島市内に納骨堂」という要望は十年ほど前から出ていた。そこで納骨堂を持つ谷山教会を除く鹿兒島市内の五つの教会の代表者が話し合いを重ね昨年七月に信徒向けアンケートを実施した。その結果が郡山司教に提出されたことで、今回の新たな動きとなった。

小神学生だった頃、「ごめんね！お前と話したかばってん、しゃべるとみんなから俺もハバ(仲間外れ)にされるけん」と詫びに来た奴がいた。その彼のその言葉のお陰で、同期生たちとほとんど言葉を交わすことのなかった一年余りの孤独を乗り越えられたと思う▼小学生の頃から正義感を振りかざすところがあつた自分だ。所構わず間違いと思われれることを仲間を叱責していた。小学生ならいざ知らず、中学・高校生ともなれば、そんなことをする嫌みな奴など嫌われて当然だつたと思う。結果仲間外れになつた。そして暫くして小神学校を後にした▼それから十年余りが経過して、あの詫びてくれた彼がひょっこり鹿兒島を訪れた。用件はただ「祈ってくれ」と願うため。助祭の叙階を数日後に控えての願事だつた▼「恐ろしか。俺が聖職者になるなんて...」

新風

最近、カトリック新聞の声の欄で次の文章を見つけた。「あなたの思いに気をつけなさい。さもないと言葉になるからだ。あなたの言葉に気をつけなさい。さもないと行いになるからだ。あなたの行いに気をつけなさい。さもないと癖になるからだ。あなたの癖に気をつけなさい。さもないとあなたの人格になるからだ。あなたの人格に気をつけなさい。さもないとあなたの運命になるからだ。」この文章を読んだ。あなたに気付きました。そ

る日本の社会ですが、統計によるとその数は収支決算の締め切り時期の三月から五月に最も多いそうです。「信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲むか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたの方の父は、これらのもがみなあなたがたに必要な

なことを「ご存じである」(マタイ福音書六章31-32節)これはイエス様の言葉です。この言葉を聞いてわたしは心は痛みます。そんな浮世離れした考えで苦しんでいる人たちの気持ちがかかるのか、との反論が聞こえてきそうです。そこでイエスは答えてみましょう。天の父はあなた方に必要なものは「ご存じだから、まず、自分の思いではなく、「神の国と神の義を求めなさい」(上掲33節)と諭すのです。具体的にはまずわたしの思いを神に向けることです。その結果、わたしの運命が決まってくる。

自殺した人たちを鞭打つのはありません。遺族の方々を非難するのでもありません。ただこのような悲劇を繰り返さないためにわたしたちは回心しなければなりません。それはまず私たちの思いを神様に向けることから始まると思います。(H・N)

回心

まず神の国と神の義を求めること

これはミサの式文の初め、回心の祈りの文言と内容の順序が同じだといふことに。つまり「わたしは思い、ことば、行い、怠り、によつてたがひたつて罪を犯しました。...人間は理性をもつ動物なので、まず頭で考えてから、もちろん直感も含めて、行動に移します。しかし行

動に移す前に迷いが生じます。果たしてこの決定は正しいのだろうか、あるいはこれでもうまくいくのだろうかとか、人はこのことについて何と云うだろうかなどです。さまざまに思いが脳裏を去来します。深刻でしかも多重的な問題に直面すると人間はパニックに陥ってしまいます。年間三万人以上の自殺者を出している

わたしの運命が決まってくる。自殺した人たちを鞭打つのはありません。遺族の方々を非難するのでもありません。ただこのような悲劇を繰り返さないためにわたしたちは回心しなければなりません。それはまず私たちの思いを神様に向けることから始まると思います。(H・N)

YET 頃、「ごめんね！お前と話したかばってん、しゃべるとみんなから俺もハバ(仲間外れ)にされるけん」と詫びに来た奴がいた。その彼のその言葉のお陰で、同期生たちとほとんど言葉を交わすことのなかった一年余りの孤独を乗り越えられたと思う▼小学生の頃から正義感を振りかざすところがあつた自分だ。所構わず間違いと思われれることを仲間を叱責していた。小学生ならいざ知らず、中学・高校生ともなれば、そんなことをする嫌みな奴など嫌われて当然だつたと思う。結果仲間外れになつた。そして暫くして小神学校を後にした▼それから十年余りが経過して、あの詫びてくれた彼がひょっこり鹿兒島を訪れた。用件はただ「祈ってくれ」と願うため。助祭の叙階を数日後に控えての願事だつた▼「恐ろしか。俺が聖職者になるなんて...」

I 集会所式

(ミサの形式と同じため、聖書の分かち合い以外は削除致します。)

「この箇所は皆さんも何度も読まれ、聞いてこられた箇所だと思えます。私自身も四十数年の信仰生活の中で何度も聞いてきた箇所です。...

北薩地区宣教奉仕者 (信徒使徒職) 養成講座 司祭不在時の宣教奉仕者司式の集会祭儀

出水教会主任司祭 大松 正弘

三番目はこのような弟への最高の扱いをする父への不満を陳べる兄の印象的な言葉です。兄は『放蕩息子』である弟に対して『あなたあの息子が』と呼びます。...

II 他者の受け止め方について 『福音宣教』二〇〇九年四月号 (光がさす時 45/9/13頁) ①三万人を超える自殺者が一九九七年以降、自殺者が三万人を超える状況が続いています。...

+KABAYAN SEKSIYON+ "Ang Ating Kawalan ng Pananampalataya" KALAGAYAN Nahaharap ngayon ang pananampalataya ng Pilipino ng Katoliko sa maraming panggigipit at tukso laban sa pananampalataya. Nagbago na ang ating buong panglipunang kalalagayan ng Pananampalatayang Kristiyanano at ng Simbahan. Noon, nabubuhay ang mga Pilipino sa isang higit na matatag na lipunan kung saan ang Simbahan ang isa sa nangingibabaw. Karaniwang ang kawalan ng paniniwala ay sumasakop lamang sa iilang taong hindi nagsasabuhay ng pananampalataya na hini hikayat ng Simbahang bumalik sa mga Sakramento. Ngayon, nabubuhay tayong mga Pilipino sa isang lipunang nagbabago, na kung saan maraming relihiyoso at di-relihiyosong tinig ang umalingawngaw sa buong lupain. Mga buong pangkat-pangkat ang nahahat tak na lumayo sa Pananampalatayang Katoliko. Nakatuon ang tugong pastoral ng Simbahan sa pagbubuo ng bagong maliliit at istrukturang pang-Simbahan tulad ng "Basic Christian Communities." o Mga Batayang Pamanayang Kristiyanano upang ipahayag ang Ebanghelyo nang higit na mabisa. Isinasalarawan ng Vaticano II ang ganito mismong kalagayan: marami ang humihiwalay mula sa pagsasabuhay ng relihiyon. Noong unang panahon, hindi pangkaraniwan ang ipagkaila ang Diyos at relihiyon hanggang sa puntong iwanan ang mga ito, at mangilan-ngilan lamang ito; ngunit ngayon parang pangkaraniwan na ang tanggihan sila bilang salungat sa pagsulong ng agham at sa isang bagong uri ng humanismo. Sa Pilipinas, ang ating suliranin ng kawalan ng pananampalataya ay karaniwang bunga ng labis na pagbibigay-diin sa isang pangunahing dimensyon ng pananampalataya, samantalang kinaliligtaan ang iba ngunit kasing-halaga ring dimensyon. Binibigyan-diin ng mga Pundamentalista na si Jesus bilang kanilang personal na Tagapagligtas, ang pag-ibig sa Biblia at ang pag-aruga sa kanilang mga kasapi, ngunit madalas na sarado sa Katolikong tradisyon, sa pag-unlad ng aral-pananampalataya, sa buhay-sakramental at sa higit na malawak at panlipunang pagmamalasakit. Matinding isinusulong ng mga aktibista ang paglaban para sa kata-rungan at pakikipag-isa sa mga mahihirap kaya kaunti ng panahon na lamang ang kanilang iniuukol sa panalangin at pagsambang Sakramental. May ilang Karismastiko ang labis na nagbubuhos ng panahon sa mga pagdiriwang na tigib ng Espiritu, ngunit nakakaligtaan na ang paglilingkod sa kapwa. Madalas na kulang ang tatlong pangkat sa tamang paninimbang at lawak ng isipan na isang tanda ng tunay na Pananampalatayang Katoliko

まず、遺産相続で兄と弟の遺産の配分は半々ではないことを聞いたことがありません。兄は三分の二、弟は三分の一だそうなんです。兄にそれだけ多くの遺産が配分されることの意味は後に明らかにになります。...

この兄の決断の部分ではないかと思えます。神の望みに反して生きている人に対して、私たちはどのように関わらなければならないか? ある人の見えている外面だけでその人を判断することは避けるべきでしょう。...

②自殺の報道と生命観 生命の価値を軽んじる報道やテレビ番組は自殺の連鎖を助長している。...

③死を通して命を思う 死者が三万人を超えたことを考えても死について考えたことになりません。二人称の死を体験することが死について直面してその意味を考えることになるのである。...

④神の恵み 神の望みは愛し合うことです。その恵みを人々に知らしめるために、神は一人子イエスを遣わされました。...

[和善の窓から] その⑤

フォーカシングへのお誘い



油を塗ってお祈りしました。身寄りもないまま、90歳を超えるまでこんなに元気、明るく生きてこられたのは、きっと、自分自身と深く繋がっていたからだろうな、と直感し感動しました。

「もう少し深く自分と繋がっていたいと思いませんか?」こんな嬉しいことを思う「自分」、こんな卑怯なことを思う「自分」、こんな自己中心的、自分勝手なことを思う「自分」と繋がるのです。...

～和善のご案内～ ▲和善の学びは直線的ではなく螺旋的に進行しますから、少し忍耐が必要ですが、何時からでも、どなたでもどうぞ! ■於・本部3階: ※月 18:30 (救済史) ※水 10:00 (救済史: 第2・4) —18:30 (Focusing) ※金 10:00 (救済史) ※土 19:00 (青年のための和善: 第1・3) ◆和善耕心塾ブログ◆ http://mr826.net/wazen/blog

教区HPの充実が急務

ネット宣教委員会が初会合

二月六日(土)午後、教区本部で「ネット宣教委員会」の第一回会合があった。これは、郡山司教が今年を教区におけるネット宣教元年と位置づけたことを



受け、インターネットを利用した宣教に本格的に乗り出すための方策について意見を交わすもの。この日、司教に招集されたのはインターネットに興味のある三人の信徒と教区広報部員。約二時間の話し合いで、司教から目指すネット宣教に関する説明を受け、その実現のための方策を探った。委員会で出された意見は、各小教区がインターネットができる環境を整えているかなどを調査する必要があることや多くの司祭や信徒が登場できる場を設けるなど教区のホームページの充実の急務などだった。

司教執務室便り

神の計らいは…



「もしもし、〇〇さんが△△時に中央駅でお待ちです。」「ハイ、了解。」イザ出動したものの、鹿兒島でのタクシー歴まだ半年のNさんは方角を間違えてしまった。約束の時間には大幅遅れの可能性大。無線で連絡して代わりの人に頼んで事なきを得た。結局、客待ち同業者の列に加わることに。先頭になったところまで乗り込んだのがボクだった。

「ザビエル教会にお願いします。」「教会に行かれるんですか。」「そうです。鹿兒島で女性の運転手さんは初めてです。」「私も昔はカトリックでした。」予期しない告白に驚いた。「えっ、で、今は?」この教会で洗礼を?」立て続けに聞いた。良く知っている奄美の教会、子供の頃のことでは教会から離れているとのことだった。「それでは」と名刺をあげなが

ら名乗った。「えっ、郡山神父様?知ってます!」今度は彼女が驚いた。それ聞いてボクも驚いた。最初の赴任地では近隣の若者たちが活発に交流していたのでそのうちの一人だったのかも知れない。弟が神学校に行っていたことや〇〇神父様のことなど堰を切ったように、問いかける間もないほどに次々と話し始めた。最近、姉上の家庭で不幸があり、教会で葬儀をしてもらったことで姉上が毎週教会に行くようになったって喜んでいても、彼女はまた道を間違えたばかりにボクと出会えた不思議さに驚きながら喜んでくれた。そういうボクも一年ぶりに出会った旧知の夫婦宅で一泊した朝に大事な会議のことを思い出し、彼らとの全ての予定をキャンセルして新幹線に飛び乗ったのだ。しかも到着の中央駅では、かねては利用しない反対の出口に駆け下りて飛び乗ったのが彼女のタクシーだったというわけだ。不思議な計らいが彼女の新しい始まりとなることを祈りたい。

中高生の長崎巡礼

みことばを生きるとは…

日時:3月29日(月)~31(水)
対象:中・高校生(新中学1年生を含む)

定員:20人(限定)

参加費:15,000円(離島からの参加者の旅費は主催者が負担します)

締切:3月14日(日)厳守!

問合せ:加世田教会・泉まで

☎0993(52)2303

60年を機に感謝状 愛の聖母園

一月二十六日(火)児童養護施設「愛の聖母園」(鹿兒島市上福元町五五〇七・シスター小牟田久美子園長)で、長年、ボランティア等で園を支えてくれた人や団体への感謝状の贈呈式があった。



これは昨年十二月に同園が開設六十周年を迎えたのを機に、これまでの感謝の気持ちを伝えたいと計画されたもの。

この日は多くのボランティアの中から子どもたちにもハンドベルの指導を行ってくれた安楽晃さんや鹿兒島国際大学ボランティアサークルなど六人に感謝状と記念品が贈呈された。

3月の会と催し

- 7日(日) 四旬節第三主日
- 14日(日) 四旬節第四主日
- 19日(金) 聖ヨセフ
- 21日(日) 四旬節第五主日
- ▼久保裕己神学生祭壇奉仕者選任式・ザビエル教会・14時
- 25日(木) 神のお告げ
- 28日(日) 受難の主日(枝の主日)
- ▼世界青年の日
- 教皇ヨハネ・パウロ二世は1985年3月31日(受難の主日)、国連制定の国際青年年にあたって全世界の青年たちにメッセージを発表し、その翌年から「世界青年の日」(WYD ワールド・ユース・デー)を毎年、受難の主日(枝の主日)に祝うよう決めました。それとともに1987年以来、「国際青年フォーラム」と「世界青年の日」記念式典が教皇臨席のもとで開催され、全世界から大勢の若者が集まるようになりました。初回の1987年はブエノスアイレスで開かれ、以降、サンティアゴ・デ・コンポステラ(1989年)、チェストコバ(1991年)、デンバー(1993年)、マニラ(1995年)、パリ(1997年)、ローマ(2000年)、トロント(2002年)、ケルン(2005年)、シドニー(2008年)が開催地となり、次回は、2011年にスペインのマドリッドにて開かれることが発表されています。
- 29日(月) 中高生長崎巡礼・~31日まで

スローライフへの挑戦

聖心教会「ミサには大島紬で!」

「ミサには自分が持っている一番いい服で来なさい」そう言われていたことを思い出させてくれる取り組みが、二月十四日(日)から聖心教会で始まった。「ミサには大島紬を着て参加しましょう」である。

この取り組みを提唱したのは主任司祭で奄美の地区長を務める小隈憲士神父。神父はこの取り組みについて次のように語っている。

「奄美の伝統文化・大島紬に心をもち、自分たちが生かされている文化を再認識して欲しい。そのことが島外の人に



郡山司教と行く 五島列島巡礼の旅

一上・下五島の由緒ある
教会で祈りをささげます

期 日:5月1日(土)~4日(火)

募集人員:25人

催行人員:15人

巡礼費用:20人以上67,000円

15人以上69,500円

申込締切:3月31日(水)

問合せ:徳永善博(ヨセフ会巡礼担当) ☎

099-206-7221

携帯 090-3669-0423

この一冊

マンガ日本史17号

朝日新聞出版の週刊「マンガ日本史17号」は、ザビエルのことをもっと知ろうがテーマ。子どもが理解しやすいように、付録にカードが付いたり、写真や挿し絵もふんだんに使われている。そして何と云って「ザビエルを日本に導いたヤジローとの出会いの描き方に感心させられる。国で人を殺めた男がザビエルの生き方に接するうちに徐々に生まれ変わっていくという設定だ。一読して欲しい。定価四九〇円。

漢字と信仰(十三)

純心学園 司祭 岡 俊郎

全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい(マルコ十六の十五)のみことばを頂きました。「頂」の字が示す通り、頭脳を超えた命の世界、即ち天からの教え・叫びをかみしめました。

存在であり、その地上の生活が成り立つ原動力なので。全世界の全は善玉の意、雑ざり気のない乳白色の玉の意。天地万物を創造された神の前に全は善に通ずる。世は「十」を三つ並べた形で三十の字である。「三十」の両音を短く詰め「シウ」が変じて「セイ」

となった。三十年を「一世」という。界は意味を表す田と音を表す介(カイ:区画する意味)とを合わせて、「田と田の境」の意。福音の福は示(神の意味を表す)と音を表す「福」(フク・酒を容れる徳利壺)に参与した人がもたらう神酒の意。酒の意味が脱落して、神から付与されるもの意となった。音は「言」の字の下の部分「口」の中に一画を加えた形。口の中

文

芸

短歌

純心学園

俳句

菜の花を飾れば楽し今日の日よ
純心学園 山頭 信子

冬薔薇ただ一輪のルルドかな
ザビエル 上野千穂子

初孫の洗礼式に梅一輪
立春や友退院のメールあり
純心学園 川上 和

紅梅やルドビコ様を紅に染め
鹿児島 徳永ノブ子

春立つや良きこと待ちし今日のミサ
ロザリオを唱えて集う浅き春

被災地のつづらな瞳愛を呼ぶほぐれる笑顔
顔カリタスの手に
鹿児島 前田 儀子

人もまた時も過ぎゆかむラベンダーの紫
の小花揺るる庭先
さびしさの窪みとなして眸なきただ青色
に目を塗るモジリアニ
鹿児島 春山マリ子

教会の祈りの友の導きに心静かに暖かな日々
怒つても抱きついてくる我が息子吾も許せと主の胸痛めて
奄美市 林 常広

みことばシリーズ⑩

重いカバン

終身助祭 桃菌淳一郎

ある部局に転勤になった時、一人の先輩の顔がうかんだ。彼はその職位にあった時ノイローゼになり退職した。そこは陽のあたるところであったが、それに似たケースが度々起きていた。「何でオレがそこに」との思いで着任した。そこは、無線部門に関する設備計画策定・設計を担当する部署であり大きな予算を握っていた。秋になると、国の予算編成に向けて息つく暇もなく予算策定に取り

組んだものだ。利権にからむこともあり、所謂代議士先生が、地元の要請の名のもとに、無理難題を持って来ることもしばしば。そんなこんなで追い詰められて精神的にもきつい面が多かった。家では見もしない書類を入れた重いカバンを持って帰り、朝はそれを抱いて出勤。そんな日が繰り返されていた。「オレもノイローゼになるのか?」と。そんなある日、「思い悩むな。その日の労苦はその日だ

けで十分である。」(マタイ6の34) 聖書のことばがうかんだ。そこで、カバンを持って帰るのをやめ、止めることにした。庁舎の門で取りに帰ろうかと思ったこともあったが、すると、いつものまにか仕事を鳥瞰する余裕が出てきた。複合的な要素からなる仕事、色々な分野で処理すればよいことが見えてきた。先輩は、何もかも一人で背負いこみ、誰も助けてくれない孤独感から心が動揺させられていった。上からは「まだか、まだか」とせまられて追い込まれ悲しい結果となったのである。「心を騒がせるな」(ヨハ

ネ14の1)と神さまは命じておられる。孤独からくる不安、そこから起ころうとしていることが心を動揺させて、見るべきものも見えなくなる。「悔い改めよ」(マルコ1の15) 原語では、「視点をかえよ。考え方をかえよ。」という意味である。「思い悩むな」という「みことば」が、「視点をかえる」ことを促し、重いカバンを持って帰ることの愚かさをやめさせ、見えなかつたものが見えるようになるという、具体的な「恵み」が与えられたのである。以後仕事は順調に進んでいった。「みことば」を食べる、即ち行動することによって

「恵み」が与えられたことを体験した。上司が「いっこうにノイローゼにならないね」と。「なんでこんな所でノイローゼになりませんか」と私。「私には神さまがついている」と言いたかった。「みことばが見いだされたとき、わたしはそれをむさぼり食べました。あなたのみことばは、わたしのものとなり、わたしの心は喜び躍りました。」(エレミヤ15の16) エレミヤの喜びが実感となった。「みことば」に生かされた小さな体験である。(鴨池教会)

回心の時「四旬節」に思う

ザビエル教会助任司祭 G・テイエン

二月九日(灰の水曜日)から四旬節に入りました。「私たちは、自分の十字架を背負わなければ、復活の栄光にあずかることはできません。」(二テモテ2:11)

四旬節は私たちがイエス様の受難に招かれています。ゴルゴタの丘でのイエス様の孤独の痛み、裸の恥しさ、そして皆のあざけりを受け、たことを私たちが心に深く刻むように招かれています。

「恵み」が与えられたことを体験した。上司が「いっこうにノイローゼにならないね」と。「なんでこんな所でノイローゼになりませんか」と私。「私には神さまがついている」と言いたかった。「みことばが見いだされたとき、わたしはそれをむさぼり食べました。あなたのみことばは、わたしのものとなり、わたしの心は喜び躍りました。」(エレミヤ15の16) エレミヤの喜びが実感となった。「みことば」に生かされた小さな体験である。(鴨池教会)

三年間もイエス様に従ってきたにもかかわらず、最後の一時間で裏切りによって、イエス様との関係をすべて失ってしまいました。イエス様と無関係な状態になってしまいました。三度目の鶏の鳴き声を聞いて

イエス様は神の一人子でありながら、自ら苦しみを受けて、私たちへの限りない愛を示されました。四旬節は私たちにそんな神の限りない愛を受け取るための心の準備を手伝ってくれます。四旬節に神は私たちにどんなメッセージを送っているのでしょうか? 「すべての人は回心しなければなりません」これが答えです。弟子たちの中でペトロはイエス様に一番近い弟子でした。しかし、一人の女の前ではイエス様を「知らない」と答えて、裏切りました。でも、イエス様を裏切ったことによつて、イエス様との出会いをもっと深く悟りました。

このように二千年前にペトロがイエス様に見つめられて回心したように、私たちもイエス様の心を見つめて、これからは、私たちが生きて行くようイエス様に約束しましょう。私たちは毎日の生活の中で、自分の十字架を担いながら、自らも十字架につけられて、息をひきとられた主イエスに従って行くことができなければならぬ、神の国に入ることができなくなりますが、この四旬節中に私たちはもう一度、神様のもとに立ち返ります。祈りと犠牲をささげ、心を整えて、イエス様の復活を迎える準備をいたしましょう。私たちがすべての人は回心しなければなりません。回心という言葉は、断食、犠牲、良いことだけを考へがちです。でもイエスは「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われました。皆さん、もう一度回心について考えてみましょう。



催し物のお知らせ

- 裏辻洋二神父の御言葉と祈りの集い
3月8日(月)~9日(火) 教区本部2F会議室 申込:柳(Tel 090-4587-2187)
- 坂本進神父のホルステック療法「心を軽くする黙想会」
3月15日(月)10時~15時30分 ザビエル教会 受講料:1,000円(昼食は500円で受け付けます) 申込:上野(Tel 099-265-4090) 内田(Tel 099-282-0298)
- スピリチュアルケア3日間研修「価値観の明確化」
3月20日(土)~22日(月) 教区本部2F会議室 申込:松村恵理(Tel 099-248-2412) 3月5日まで
- 司祭のマリア運動
3月27日(土)10時~15時 ザビエル教会1Fホール 内山恵介神父参加費:2,000円(弁当代込み) 申込:久留ひろみ(Tel 090-4582-1824)
- スピリチュアルケア5日間研修「人間関係とコミュニケーション・傾聴」
5月1日(土)~5日(水) 教区本部2F会議室 講師:W・キップス神父 参加費:40,000円 申込:松村恵理(Tel 099-248-2412)